

【2023年度】

III 2023年度教育活動の重点目標	評価	コメント
<b>1 教育課程内の教育活動の充実</b>		
(1) 3観点の評価と評定の算出方法の研究を進めます。定期試験の点数のみによらない、生徒の多様な学びを評価する仕組みを研究し、実践を進めます。	3	3観点の評価については職員会議などで教員研修を複数回行うことができた。また、高校の評定を10段階から5段階に変えるために算出方法の検討も進めた。一方で、その実践についてはまだまだ道半ばであり学校全体の課題である。
(2) (1)の研究、実践を通して定期考査のあり方を提案します。	2	今年度は上記(1)の研究、発信部分にとどまり、実践を広める段階まで至らなかった。また、個々の教員では様々な実践が行われており、それを教科会レベルでは共有するところまで進んでいる。この実践を活かして来年度は定期試験のあり方の検討を進めたい。
(3) 本校の教育実践を広く広めるとともに、教員の授業研究の促進を目指し、公開研究授業を6月(校内)と11月(校外)の年2回実施します。	3	研究授業を6月(校内)、11月(校外)の2回実施することができた。6月においては通常授業の時間帯で実施しているため、相互参観が容易ではなかった。この点は来年度の課題である。11月の公開研究授業では外部から多くの方に参観していただいた。一方、教科によって参観人数のばらつきは大きく、外部への告知をどのように行うかは課題である。
<b>2 学習の充実および多様な進路実現・能力開発にむけてのコース・カリキュラム選択</b>		
(1) 進路指導・キャリア教育を通じて、「自律して学び続ける生徒、これからの社会で生きていくためのスキル、人間力を身につけた生徒」を育成します。	2	ベネッセ、河合塾、外部講師の進路講演、大学説明会、キャリア・アントレプレナーシップ講演会等を開催した。コロナ前のキャリア関連の行事も概ね再開できているが、今後、各授業や総合探究の時間、外部講演、見学会など様々な教育の場を通じて、さらなる生徒の資質・能力の育成をはかりたい。
(2) 大学入学共通テストにおいて5教科7科目受験の国立希望者130名を目指す。	4	国立5教科7科目(900点)受験者131名(理系100名、文系31名)、早期国立決定者10名であり、概ね達成できている。次年度以降も広く国立にむけた進路意識の育成と、それに対応する学力の育成に努める。
(3) 本校の中間層が千葉大学で合格できるよう共通テストで平均が千葉大学のボーダーライン以上の得点率を目指す。	2	国立型受験生徒の平均は634/900=70%であった。全体的にあと5%ほどの上積みが必要である。
(4) 英語関連講座などを通じて英語4技能の能力を高めるとともに、外国の文化・価値観や国際的な問題を理解して、さまざまな場で活躍できるグローバルな人材育成に努めます。	4	英検2級対策講座や芝浦推薦生徒への講座を実施した。海外留学などの国際部、英語力の取り組みとあわせて、様々な機会を提供している。また、今年度はさくらサイエンスプログラムを利用して、ベトナムFPT高校との国際共同研究、生徒招聘も実施した。
(5) 中高各学年に応じたキャリア教育、面談などを推進し、進路・職業意識の向上、学習意欲の向上に繋げます。	3	各学年で様々なキャリア教育を実施できているが、6学年を見通した進路指導について整えていく。また、進路意識の向上とともに、探究力、基礎学力といった力を審美に身につける取り組みを強化する。
(6) 理系に進学する女子を増やすために、さまざまな方を検討し、イベントを実施します。	3	理系女子講演会を実施した。ロールモデルとなるような理系で活躍している方に触れる機会を増やしていきたい。また、理系志望の女子生徒を育成するために、性別にとらわれずに幅広い進路の可能性を考えさせることも必要である。
(7) 総合型選抜・学校推薦型選抜に対応し、「主体性・多様性・協働性」などを育むとともに、多様な入試方式への対応を促します。	3	総合型選抜、学校推薦型選抜において、難関大学をはじめとして良好な成果を上げた。これらの入試の割合が増すなかで、面接、小論文等の指導や各大学の入試への対応などをより整えていくことが求められる。
<b>3 生徒活動及び生徒指導の推進</b>		
(1) 新柏駅や電車、バス乗車のマナー向上を目指して、生徒の自治活動を支援するとともに対策を実行します。	3	生徒会有志による朝の挨拶運動が行われているが、乗車マナー等への呼びかけまでには発展していない。その他公共交通機関利用のマナーについてはポスターを掲示し、啓蒙を図っている。新柏駅の乗車指導については教員日直、シルバー指導員に頼っているが現状。
(2) 情報端末の使用規程に沿って、正しく行動選択ができるよう生徒の自治活動を支援します。	3	乗車マナーと同様、啓蒙活動としてのポスター作成は内容をよく工夫しており、日頃から目にするような掲示方法も考えられている。中高ともにSNSの間違った使用・発信による問題行動も散見される。
(3) 文化祭をはじめとする学校行事や委員会活動および生徒会活動において、生徒の主体的な活動を引き出し支援します。	4	文化祭は数年ぶりに制限のない公開形態を実施したが、経験者の少ない中、実行委員会を中心に成功に結び付けた。中学合唱団も同様で、実行委員会がより機能した。進行については次年度以後も課題も残した。高校合唱団の復活は標準中である。全校集会では、整列指示から始まり、司会進行を生徒のみで行い、運営全般を担っている。
(4) 地域に貢献する活動を立案し実践します。	2	柏駅前商店街との連携事業は定期的に参加が定着している。地元増尾地区のイベントには生徒会有志での参加もあったが、まだまだ盛んではない。校内でのイベントとの連携は文化祭で一部実施されたがまだまだ今後の課題とされる。
<b>4 健康な学校生活の推進</b>		
(1) 生徒および教職員の健康診断結果に基づき、すみやかに検査や治療の勧告をします。インフルエンザ、麻疹などの予防接種を奨励します。養護教諭による保健指導、AED・心肺蘇生法・エビデンの講習会を実施します。	4	計画的に健康診断を実施し、治療や検査の指導を行なった。多くの教職員が接種できるよう、複数日を設けてインフルエンザ予防接種を実施した。また、感染症対策を講じながら各種講習会を実施した。
(2) 相談室「クオア」において生徒の学校生活への適応や、教員・保護者の対応を支援します。教員向けの研修会や事例検討会を実施します。	4	教員対象の勉強会を2回(「自殺について」「性暴力と被害者」実施。事例検討会(3月)・茶話会(2月)を実施予定。「クオア」では生徒、保護者、教職員に対して適切な支援を続けた。「保健だより」を定期発行して、生徒や保護者へ情報を提供した。また、教職員向けに「健康支援部ニュース」の発行(4/17・10/10)を開始した。
(3) いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見と再発防止に取り組む。中学生の「心の教育」を推進し、豊かな心を育てる学校を目指します。	4	いじめを早期に発見するため、生徒・保護者に対する定期的な調査の実施回数を増やすとともに、相談体制の整備、いじめ防止等に關する教職員の資質向上を引き続きはかり、特に中学生には道徳の授業を中心に心の教育を実践した。
<b>5 ICTを活用した教育の推進及び校務のDX化</b>		
(1) Google Classroom, Googleフォーム, Googleドライブを始めとしたGoogle Workspaceやスクールタクト、canva等の活用研究を進めます。	3	学年・教科等でGoogle Workspaceやスクールタクト・は十分活用されている。ただし校務で使用しているドライブの整理が出来ていないので今後の課題とした。
(2) Google Workspaceなどを活用することで校務のDX化をより推進します。	4	前年度からの引き継ぎで紙ベースのものは出来る限り無くし、また、必要なものをグループサイトで一か所にまとめました。
(3) ICTを主体的に活用できる生徒を育てます。授業時以外でもICT機器を適切に利用することを目標とします。	3	行事・部活などでも、生徒は情報端末を使いこなしている。ただしICT委員会の運用が上手くできていないので次年度の課題としたい。
<b>6 読書習慣の形成とICT教育環境の推進</b>		
(1) 生徒の読書習慣を把握し、その現状を把握します。図書室及び図書委員会の取り組みを生徒、教員と情報共有します。	3	図書室と連携することはできたが、読書週間の把握には至らなかった。図書委員の取り組みとして今年度もビブリオバトルを開催することができた。
(2) ICT化を進めて視聴覚・情報機器を活用しやすくし、より効果的な授業環境の整備を図ります。	3	特別教室を含めほぼすべての教室にプロジェクターを配置し、今年度末には保守期限の切れたものをリプレースする作業を行う。
<b>7 「家庭と学校」「地域と学校」の連携及び安全の推進</b>		
(1) 防災、危機管理の体制を再検討し、災害時の避難連絡体制を構築します。また、より有効な防災備品の追加、備品管理場所の確保などを行い、非常時に円滑に行動できるように全教職員、生徒に周知徹底を図ります。	3	防災備品の更新、見直しを実施。防災用品に関して不足しているもの、劣化しているもの洗い出しを行っている。防災に関しては不足している部分を洗い出し、予算化を検討しているところ。
(2) PTA、同窓会との連携を図り、諸活動の活性化を促します。	3	PTA活動に関してはスムーズに運営できているが、総務部として同窓会との連携があまりうまく機能できていない。
(3) 式典は厳粛で、生徒保護者に満足されるように、行事は効率的かつ一体感をもって安全に運営します。	4	総務部管轄の行事に関しては十分に達成されている。
<b>8 広報活動の充実・募集形態の研究</b>		
(1) 学校説明会においてPTAミラコンフォーションを明確に示し、入試形態を簡潔に説明していきます。また、対面式説明会やオンライン説明会、見学会など受験生のニーズに合った様々な説明会を企画し実施していきます。	3	年に3回の学校見学会では中学・高校で実施し、本校の教育の特色を説明した。また、年に4、5回の入試説明会を中学・高校で実施し入試の形態や出題傾向の説明をしました。次年度は、今以上に生徒に説明や案内の手伝いをお願いしようと考えています。
(2) 学校概要や教育の特色を簡潔に盛り込んだ学校案内(中高版・高校版)とそのデジタル版を作成し学校外で行われる相談会等で活用します。	4	学校案内は、今年度から新しい作成業者に変更。教育の特色をメインに盛り込み、写真にもこだわったパンフレット(デジタル版も含む)は説明会や相談会等で配布、活用しました。
(3) 「建学の精神」を、身に寄せてはいた3要素「CSC」、また、教育の3本柱である「探究活動」「サイエンス教育」「グローバル教育」をはじめ「ICT教育」「キャリア教育」などの活動報告をわかりやすく具体的に外部へPRしていきます。	4	学校主催の説明会の他、外部で行われる説明会でも「建学の精神」「CSC」をはじめ探究活動、サイエンス教育、グローバル教育、ICT教育、キャリア教育の説明をしました。次年度は、生徒が行っている探究活動や講演会などのキャリア教育の具体的な内容をわかりやすく紹介していきたいと思ひます。
(4) ホームページやSNSを活用して、本校の教育の特色や中学・高校入試の情報などを発信し、受験生獲得に向けた広報活動に生かしていくとともに、本校のブランドを外部に広報します。	3	先生方の協力のもと、学校行事等を甲でトピックとして紹介しています。IPにアップするタイミングが重なってしまったりしないように心がけたいと思ひます。また、InstagramやLINE、Xも更新頻度を上げていきたいと思ひます。
<b>9 事務室によるハード・ソフト両面にわたる学校運営支援体制の強化</b>		
(1) 理事会による校舎・施設等の将来計画を注視しながら、一部老朽化の進む施設・設備について、必要に応じた迅速な修繕・改修を施すことで、教育環境の維持・変化に継続的に努めます。なお、状況を十分に把握し、法人関係部課とも協議した上で、修繕・改修時期に関する確かな判断を下します。	4	指中高度設計委員会が正式に発足。委員による施設見学の機会などを捉え、早期着工と建て替えが必要な範囲を要望した。一方で、新設されるまでの期間を現校舎で凌ぐための改修について、法人へ予算要求を行い、中央校舎昇降口、廊下、階段の修繕など計画した部分はほぼ満額回答を得ることができた。今春より工事に着手する予定。
(2) 学年主任会・教科主任会・総務部等との連携を密にすることで、各会から上がってくる事務関連提案や要望に関する関与を迅速に行います。	3	各会と連携し取り組んだ。事務室からも校内起案手続きの簡略化など新しい提案を行った。
(3) ICT教育の基盤として導入を始めた教室の単体プロジェクトは、初期に導入した機体が5年を過ぎ不具合が増えてきたことから、授業運営に支障が無くい様に代替機等を確保しつつ、今後の機器更新について検討を行います。またDX推進部や情報科と連携して情報教室のリプレースを進めます。	4	DX推進部と連携し中学教室、音楽室、家庭科室の新機種を選定し、法人の業者選定委員会にて実施の承認を得た。春休みに工事を実施予定。
(4) 経過措置中のスーパーサイエンスハイスクール支援事業に付随する諸事務を、研究部と連携して正確かつ確実に進めつつ、同時に第3期の申請に向けた取り組も進めます。	4	研究部と連携し第3期申請書類の提出を行った。
(5) 生徒の探究活動や本校のSSCIIIでおこなっている先取り授業の後継プログラムの開発、併設校推薦、働き方改革に関する取り組みについて事務室も芝浦工業大学との連絡点となり、取組の促進などに寄与する。	3	教員と大学の間に立ち、入試手当の改善を実現した。
<b>10 学び続ける人材を育成する教育者の確立</b>		
(1) 新しい時代に求められる資質・能力を育む学習指導要領や大学入学者選抜改革に関する理解を深めた上、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実、文理連携・文理融合教育の推進、キャリア教育の推進に努めます。	3	教育推進センターと教育振興部、教科主任会で連携しながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進した。全校でその成果を共有するために6月に教科ごとに研究授業週を設け、7月に授業研究会(全体・各教科)を開催した。さらに、11月に外部教育関係者を含めて公開研究授業を実施することで、校外にも広くその成果の普及を図った。
(2) 教師の採用・研修の一体的改革を推進することで教育基盤の強化を図ります。	3	職員会議や定例会後打ち合わせ日において、各種教員研修を実施することができた。個々の教員の興味関心を広げる研修を開催できた。その一方で任意参加の研修が多すぎるなどの意見も聞かれたので研修の重要性を引き続き丁寧に説明する必要がある。教員採用においては、教科主任と連携し課題をだしている段階である。
(3) 生徒の情報活用能力を伸ばしデジタル人材の育成に努めます。そのための教師の指導力向上を図ります。	2	一人一台端末、Wi-Fi設備など環境面においては非常に充実している。一方で、中学技術、WD、高校情報、総務などの時間で情報活用に関する学びは実践しているがまだまだ十分であるとは言えない。今年度も生成AIが出てきたが、教員が日々学び続ける状況にならないことには教師の指導力を向上させることは難しい。各種研修の機会を設けるとともにその必要性については継続的に呼びかける必要がある。
<b>11 SSH研究開発に基づく教育活動の充実</b>		
(1) GS/SS探究授業、World Day、総合的な探究の時間における第II期の取組を振り返り、正課内外の探究活動(課題研究)を軸とする重層的かつ効率的な教育プログラムの開発と実践を行います。	3	学年の約3分の1にあたる100名から120名が参加している学校設定科目GS/SSを全生徒へ拡充するためのカリキュラム改革を推進したため、高校の総合的な探究の時間の代替科目である学校設定科目SSは順調にカリキュラムができてきた。しかし、そのSSに接続する中学の総合的な学習の時間カリキュラムは方向性が共有されるにとどまり、具体的なカリキュラム作成は来年度に委ねられる。
(2) 芝浦工業大学の教員と連携しながら将来の理工系人材に資する資質・能力の客観的な評価法の確立と課題研究用Project Rubric運用の深化に取り組む。	4	第II期では将来社会で活躍する科学技術人材に必要な探究スキルをCSC能力と定義し、課題研究用Project Rubricを運用することでその伸長の推移を分析してきたが、第III期申請を目指すにあたってそのCSC能力を見直した。第III期では世界に類した価値を創造する理工系人材に必要な資質・能力をSSコンピテンシーと定義し、その評価検証方法の研究を芝浦工業大学の岡田佳子先生と連携しながら行った。
(3) ベトナムFPT大学・高校、芝浦工業大学と共同開発・実践を重ねてきたプログラムの拡充と芝浦工業大学との連携を中心とする高大連携研究の推進を図ります。	4	第II期を開発した本校生徒とベトナムFPT高校生徒との共同研究プログラムの改善を図りつつ、同様のプログラムをタイのキングメット工科大学付属高校にも展開した。また、高大接続プログラムであるSSCIIIに課題研究支援プログラムを取り入れた結果、非常に充実したプログラムへと発展し来年度の受講希望者は急増した。
(4) 校内外において、探究活動(課題研究)実践に関する普及と教職員研修ネットワークの構築を目指す。	3	教員が最初に普及がちな「生徒が研究テーマを決めるときにどのように支援すると効果的か」というテーマで8月に公開研究会を開催し、また11月に通常教科の授業改善をテーマに公開研究授業を実施した。SSH事業で培った成果を積極的に関外教育関係者に対して普及することができたが、来年度、SSH第III期を目指す本校としてどのようなテーマでどのレベルの研修会、研究授業を行うべきかを検討する必要がある。
<b>12 世界で活躍できるグローバル人材の育成</b>		
(1) Well Beingを追求したグローバル教育を目指す。海外の経験・文化を通して、Student Agency及びGrit(やり抜く力) :Guts(闘志)、Resilience(粘り強さ)、Initiative(自発)、Tenacity(執念)を養います。	4	海外留学説明会には400名を超える参加者があり、関心の高さを物語っている。コロナ対策として国の入国制限は緩和され、海外研修の機会もコロナ以前に戻りつつあるとはい、渡航費用等が高額なため、行きたいと思う生徒全員が海外に行けるわけではない。給付型の奨学金の紹介をしながら、グローバル教育を進めていきたい。
(2) グローバル基盤のオーセンティックな教育を実践します。教科書、4技能試験など、世界で通用するコミュニケーション能力を養います。	4	ケンブリッジ英検を導入し、英語の教科書はオーセンティックなものを選んでいる。今後も英語をツールとして使い、英語を通して様々な視点から考察するような授業展開が望まれる。教科書以外の英語も使用されるようになるであろう。
(3) 持続可能な発展を教育を目指す。AI時代に、生き抜く力を育てます。多様性を認め、クリエイティブ・シンキングをツールとしたリテラシーを身に付け、異文化交流に必要な能力を身に付けます。	3	クリエイティブシンキングというツールを使う方は今や全世界で求められているが、授業で扱う生徒向けのアクティビティなど具体的な活動は定まっておらず、各教員にゆだねられている。授業でどう扱うかを具体的に進めなければならぬ。

※4段階：【4】十分に達成 【3】ほぼ達成 【2】やや未達成 【1】未達成 評価理由コメントをお願いします。